

## 春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ

井上勝巳

日本野鳥の会愛媛県支部, 〒796-8037 愛媛県八幡浜市谷 5-356

### はじめに

春期のタカ類の渡り調査は各地で実施されているが、秋期の調査に比べると活発ではない。その理由として、渡りの期間が長いことや記録される種や個体数が少ないこと、渡り経路が秋期のように明確ではないこと、などがあげられる（井上 未発表）。

筆者は1991年より毎年、5月初旬に長崎県対馬を訪れ、対馬北部において数十羽単位の花チクマ *Pernis apivorus* と、サシバ *Butastur indicus* を目撃し、島内を南下する様子を観察した。この渡りは山形（1996）はじめ、ほかの野鳥観察者にも目撃されている。また、対馬空港周辺でも南下する花チクマが観察されている（小澤重雄 私信）。

このたび、長崎県対馬で花チクマとサシバの春期の渡り調査を実施した結果、これまでには認識されていない、対馬を経由して南下する渡り経路を確認したので報告する。

### 調査地および調査方法

春期の花チクマの渡り時期は一般的に5月上旬とされており、対馬でも過去に渡りを観察していることから、1997年5月1日から5月11日までの11日間に調査を実施した。

調査場所は、渡り移動を確認するため対馬の北部と南部で実施した（図1）。北部の調査は5月4、5、7、9、10日に上県郡上県町佐護・棹崎（標高81m）で行なった。棹崎は海に面して視野が広く、朝鮮海峡を隔ててブサン（釜山）までは約50kmの距離であり、気象条件が良ければ灯台やビル群が見えるなど、渡りの調査場所として適していた。

南部の調査は5月1、2、6、11日に実施した。このうち5月1日は調査場所を探す目的と渡りの概要を把握するため、対馬南部を移動しながら調査した。下県郡嶺

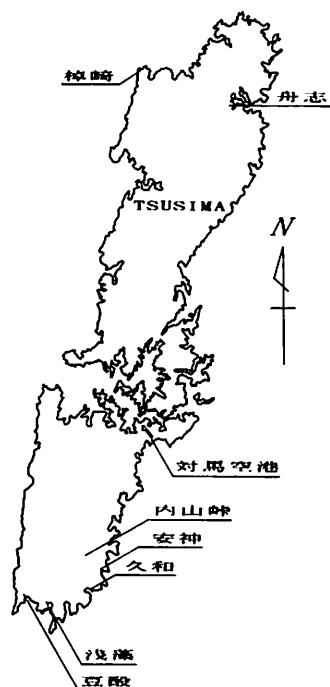


図1. 調査を行なった長崎県対馬  
Fig. 1. Study site, Tsushima  
Island, western Japan.

1997年12月24日 受理

キーワード：サシバ, 対馬, ハチクマ, 渡り

原町内山・内山峠（標高430m）は北に無石ノ壇山（536m）、南に萱場山（512m）が近い  
ため南北の遠望はできないが、東西が開けているため通過個体の確認が容易であり、渡りの調  
査場所として対馬南部では最も条件が良かった。しかし、5月2、6日の2日間は雨天と濃  
霧のため内山峠での調査を中止し、豆殿や内院、浅藻で調査した。内山峠での調査は5月  
11日に実施した。

調査は日の出時刻より開始し、日暮れまでを原則としたが、気象状況により時間を短縮し  
た。記録は種や個体数、時刻、進入場所、飛来と飛去の方向、気象状況などとした。観察に  
は双眼鏡（8×56）をもちい、移動方向の確認にはオイルコンパスを使用した。

### 結果および考察

棹崎では5日間の調査を行ない、合計でハチクマ87羽、サシバ58羽を記録した（表1）。  
ハチクマとサシバは棹崎の北西約1km付近の海上や南西方向の海上で確認され、のちに棹  
崎や周辺の海岸線に進入した。その後は、陸上部を南東から南方向に移動した。観察点の北  
側上空で発見する場合もあったが、のちの移動は南方向であった。

このうち、ハチクマはすべての個体が海上から飛来して、南方向へ移動する一方向の渡り  
であった。しかし、サシバ6羽（10.3%）がこの方向とは逆に、棹崎から北西および北方向  
（磁針方位約280°および約290°～約30°）の海上へ飛び去るのを確認した。これは、朝鮮半  
島から渡って来た個体が引き返すのか、南から北上した個体が対馬から朝鮮半島方向へ渡る  
のかは不明であった。

対馬南部の調査では、雨天と濃霧の5月2、6日は南部一帯でタカ類の渡りは記録され  
ず、樹上や電柱、低い上空などで一時滞在とみられるハチクマ1羽とサシバ14羽を観察し  
た。渡りは5月1日に巖原町安神で、15時35分以降にサシバ16羽の南下を記録し、巖原町  
久和では16時21分以降に、上空を旋回するサシバの群れ20羽を目撃した。久和の群れは対  
馬南端であることや夕方であることから、飛び立ち場所付近で滞在するねぐら入り前の個体

表1. 長崎県対馬におけるハチクマとサシバの渡り調査集計

Table 1. Migrant Honey Buzzards and Grey-faced Buzzard-Eagles in Tsushima western Japan.

調査地	調査日	調査時間	ハチクマ		サシバ		天気	風向	風力	備考
			南へ移動	南へ移動	南へ移動	北へ移動				
舟志	1994. 5. 6	06:00~13:30	27	5	0	快晴	—	—		
佐護・棹崎	1994. 5. 7	06:30~11:40	29	1	0	快晴	—	—	海上に霧あり	
	1995. 5. 7	06:50~10:40	26	2	0	快晴	—	—		
	1996. 5. 6	06:00~11:30	76	23	0	晴	北	2		
佐護・棹崎	1997. 5. 4	06:40~09:05	5	0	0	曇	南西	5	濃霧視界約4km	
	1997. 5. 5	07:30~08:30	0	1	0	濃霧	南西	4	濃霧視界約200m	
	1997. 5. 7	06:25~09:00	0	2	0	曇	南	2	10:00より降雨	
	1997. 5. 9	05:45~15:40	26	49	6	快晴	北東	2		
	1997. 5.10	05:20~10:30	56	0	0	薄曇	南西	3	霧、視界約10km	
安神ノ内院	1997. 5. 1	15:30~17:00	0	36	0	快晴	—	微風	サシバ20羽は滞在	
豆殿ノ内院	1997. 5. 2	06:55~11:00	0	8	0	濃霧	—	微風	すべて滞在個体	
内院ノ浅藻	1997. 5. 6	06:00~13:30	1	6	0	濃霧	南西	2	すべて滞在個体	
内山峠	1997. 5.11	06:00~18:00	57	12	0	雨のち曇	南西	2	降雨中は未記録	

と推測した。

内山峠では5月11日の集計でハチクマ57羽とサシバ12羽を記録した。いずれも北より飛来してさらに南下したことから、移動方向が北から南であることを確認した。なお、対馬南端から海上への飛び立ちは未確認である。飛び立ち場所の確認や対馬以南の渡りが壱岐を経由するのか、進入地点は九州北部なのか、などについては今後の調査課題である。

山田（1997）は本調査と同時期の5月9日から5月17日まで、韓国から対馬へ渡るハチクマとサシバを調査し、プサン（釜山）とコジェド（巨濟島）でハチクマ512羽、サシバ47羽が対馬方向へ渡ったことを確認した。この報告と本調査の結果より、春期に韓国から対馬を経由して南下する、ハチクマとサシバの渡り経路の存在が確認されたといえる。なお、コジェド（巨濟島）から飛び立つハチクマとサシバは、対馬南部に向かって飛ぶことから（山田一太 私信）、対馬への進入場所は北部に限定されないと推測する。

山口県北部の日本海に位置する見島では5月上～中旬にハチクマとサシバの観察記録がある（塚原 1993）。また、1997年5月上旬には約200羽のハチクマが観察され、一部が東方向へ渡った（門田憲明 私信）。このことから、春期に日本海側を北上する渡り経路が存在する可能性がある。対馬を南下するハチクマとサシバが、見島の渡りと関連するかは不明であるが、春期の渡りを解明するための調査地点として見島は重要である。

また、九州北部の背振山系では西から東へ、熊本県金峰山では北から南へ渡るサシバの記録がある（井上 1997）。報告者は南西諸島を北上する渡り経路以外の存在を予測しており、対馬を南下するサシバの移動がこの渡りと関連する可能性がある。

西村（1997）によると高知県では、1997年3月22日から5月31日にサシバ10,510羽、ハチクマ35羽の渡りが記録されている。サシバは3月28日から4月7日までに7,877羽（74.9%）を記録しており、3月下旬から4月上旬が渡りのピークと推測される。対馬では、春期の渡り時期が異なる可能性も否定できないが、本調査で5月上旬に記録されたサシバは、すでにピークを過ぎた渡りと推測される。渡りのピークと考えられる3月下旬から4月上旬に対馬南部で調査を実施することは、サシバの春期移動を解明するために重要である。なお、西村（1997）の報告ではハチクマの初認は5月5日であることから、ハチクマの渡り調査は5月上旬以降も行うことが適切であると考えられる。

棹崎では南下するサシバと北上するサシバが観察された。タカ類の渡りで同種が同時期に、同一場所で交差する事例として、春期に四国北西部の佐田岬半島を東西に渡るハイタカ類の例がある（井上 1993）。この渡りは、四国以北を繁殖地とする個体と朝鮮半島への移動が交差すると推測されるが（井上 1993）、サシバの場合にも繁殖地や渡り経路の違いから、対馬で南北に交差する渡りが存在する可能性も考えられる。

春期に対馬を南下するハチクマとサシバが、秋期には対馬を北上して朝鮮半島に渡るのかは不明である。1997年秋期の対馬・内山峠の観察では9月10日から9月21日のあいだにハチクマ64羽が記録された（馬田勝義 私信）。しかし、移動方向については「南への移動以外に北への移動が観察された。南端からすぐには渡らない個体の引き返しとみられるが、現状

では渡りの方向について明確に断定できない」とのことであった。

これ以外の資料では、長崎県五島列島・福江島では秋期にハチクマ約8,000羽が西方向へ渡ることや(山田1994)、1996年10月10日にサシバ14羽が長崎県生月島を南下したことから(今里順一郎 私信)、秋期に対馬を北上する渡りは存在しない可能性が高い。このことから、ハチクマとサシバの一部には、春期と秋期の渡り経路が異なる個体が存在する可能性が予測される。

## 謝 辞

本短報をまとめるにあたり、広島県の山田一太氏には韓国南部の渡りについての資料を提供していただいた。また、長崎県の今里順一郎氏や馬田勝義氏、山口県の門田窓明氏、東京都の小澤重雄氏には春期の渡りについてご教授をいただいた。記して深く感謝申し上げる。

## 引用文献

- 井上勝巳. 1993. 春期に西へ渡るハイタカ属3種. *Strix* 12: 85-92.
- 井上賢三郎. 1997. 九州北西部における春のサシバの渡り. *Strix* 15: 130-132.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 西村俊彦. 1997. 1997年春のタカの渡り. 日本野鳥の会高知支部報 しろぺん (130): 9-10.
- 塚原和之. 1993. 見島探鳥記録. 日本野鳥の会愛媛県支部 ゴジュウカラ (22): 14-16.
- 山田一太. 1994. 1994 福江島ハチクマ渡り調査速報. 日本野鳥の会広島県支部報 森の新聞 75: 16.
- 山田一太. 1997. 朝鮮半島から南下するハチクマとサシバ. *Birder* 11(10): 46-52.
- 山形則男. 1996. タカの渡り. ワシタカ類飛翔ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

## Spring migration of Honey Buzzards and Grey-faced Buzzard-Eagles in Tsushima, Nagasaki Prefecture

Katsumi Inoue

Ehime Chapter of the Wild Bird Society of Japan. Tani 5-356, Yawahama-City, Ehime 796-8037.

The study of migration of hawks was conducted in Tsushima, western Japan during May 1-11, 1997.

I observed that 87 Honey Buzzards *Pernis apivorus* and 52 Grey-faced Buzzard-eagles *Butastur indicus* migrated from Korea during 5 days, and 6 Grey-faced Buzzard-eagles migrated to Korea during 5 days at Saosaki, northern Tsushima. I also observed 57 Honey Buzzards and 12 Grey-faced Buzzard-eagles migrated south at Uchiyama, southern Tsushima.

*Key words:* Grey-faced Buzzard-Eagle, Honey Buzzard, migration, Tsushima